

藝盡磨腕前

に  
は  
く  
は  
ら

かん

うう吉六すくつて

わらはせるのは

ちかうしつかりして

きやうし

吉六

ヲイがん大夫

ちくらだいこをみた

やうにほんく

いはすにくるが

このサ

ま  
く  
は  
ら

三津

サアいちばんかいで

まけるのもいやだし

かつのもいやだから

中

お  
ま  
は  
ら

栄

ううかかひをまかしては

いやだよわたしも

かたないやうにするから

九蔵

吉番

きな

せへ人気にんきは

ともあれ

うでをくらへてもれへてへ

手ぬぐひ引き

高しまや

なんでもみんなが

はげみなせへ

竹さんも

くにさんも

いまがかんじんの

ところだよ

そのあんばいでは

しゆつせは

いまのまゝへ

国太郎

新車太夫が

とり口はをしへて

くれたから

まける気き

づかひは

ないよ

竹松

わだこだよこして

あこやとの

おとじじいからやたらに

まはて

じまるものが

背く入

冠五郎

山田河内屋

せごの言へのては

おそらくおれ

ぐねへなものはあめへ

十蔵があねへから

おねじじいくものば

ねへへ

現十郎

ななほゆめへの

背はすすてきな

ものだ

つかこじいば

おねほいあめへの

権十郎

あせあせあせあせ

のこじい

しんぱつだ

【おぼし】

訥弁

「おぼし」

おぼし

いんがまける

おぼし

しねへかぶる

まげられねへ

ぼし

芝翫

わたしは

人とあら

そぶのがきらいだが

みんながいろ／＼の

事を

ゆつて

ゆるから

しかた

なく

なかまいりを

したの

くびツ引

彦二郎

「ウ成こまや

このぼへ

のぞめば

しかたがねへから

しつ

かり

やんな

とは

いふ

ものゝ

しやりに

あせを

ながしてやる

のもやぼサ

福助

なるほごほねがをれるが

こゝか御ひぬきの力だ

菊次郎

モシ桑さんおまへと

あらそふのもおとなげ

ないがしかたがないよ

ひげわたし

新單

くちびるの

大きいのでは

いちばん

だらうが

たつしやな

のでは

わたし

ぐれへな

ものはあり

やすめへ

鶴威

おそろへ

おれくれへな

くちびるは

おそろへ

てをぐせママ

ねへへがくちびるの

わねならいなたいせ

おごぞなへ

蔵

わたしはまけてもかつても

いへいへいへいへいへ

ほめられてよん所なく

やつてゐるので

ゆびずまふ

家橘

コヲ太夫

てんぐは

おいて

さアきな

せへ

中にかい

をあひ

てにする

のはふそく

だがまはり

あはせだから

しかたがねへ

田之介

わたしは

人にまける

のが

きついきびひサ

なんぼりけん

でも

うでおし

大夫元

わたしと

太

うちは

でき

めへ